

西鉄バスジャック事件の被害者となって

山口由美子

1. はじめに
事件に遭う前は、人を殺したら死刑と思っていた。
2. 事件当日のこと
2000年5月3日、佐賀バスセンター12時56分発福岡天神行の高速バスが17歳の少年に乗っ取られ、一人死亡、二人が重傷を負う。
3. 搬送された広島の病院で
精神科医からの言葉かけや看護師との関係の中で癒され、自分を丸ごと受け入れるようになった体験。
4. 「少年」の両親からの謝罪
謝罪の手紙が届き、その後、我が家を来訪。
5. 「少年」との面会
京都医療少年院の計らいで、加害少年と面会。
「これまで誰にも理解されずつらかったね。だけど、あなたを赦したわけではない、赦すのはこれからです。これからの生き方を見ているから…」
6. 面会后「少年」からの手紙
「僕が申し訳ない思いを伝えた時、山口さんは泣かれました、私のことを思って泣いてくれました。私はそのとき、自分の罪深さと温かい思いが同時に湧き起りました」
7. 被害者支援の在り方
被害者には、自分が体験した被害のことや気持ちや必要を、聴いてもらい受け止めてもらう時間が必要。
私は入院したことで、多くの方からの援助や話を聴いてもらう機会があり、さらに、「少年」や「少年」の両親から謝罪もあり、回復していった。